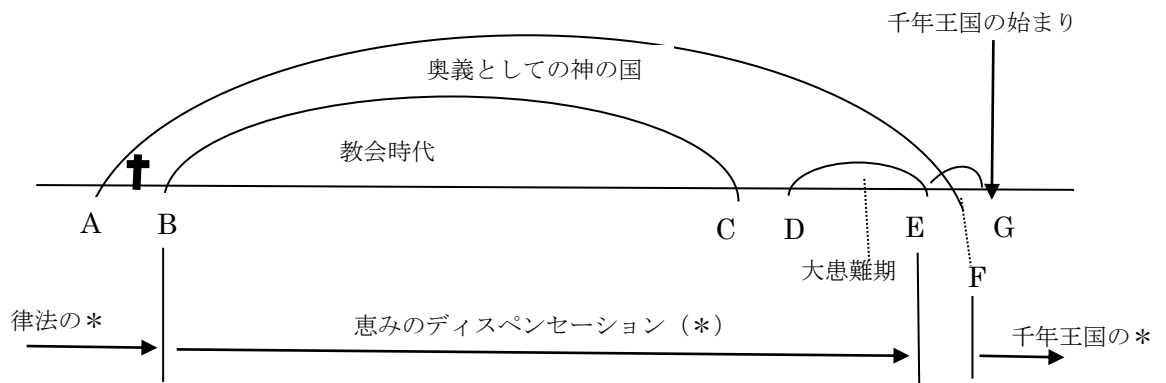


新約聖書の中の奥義 第23回 「奥義としての神の国」と神の国の5つの層

□ 奥義としての神の国 (前回の内容)

1. 「奥義としての神の国」は、イスラエルの指導者層がイエスをメシアではないと拒否したとき (マタイ 12 章) 【A】 から始まり、諸国民の裁き (マタイ 25 章) 【F】 で終わる。この期間の中に、教会時代と大患難期が含まれる。
2. 聖霊のバプテスマは、紀元 30 年五旬節の日に起きて、教会を誕生させ 【B】、教会時代をスタートさせた。教会時代は、教会の携挙 【C】をもって終了する。教会の携挙とは、教会の信者たちの復活と変換、そして天への携挙である。教会の携挙のあと、地上は、大患難期 7 年間を迎える。
3. 大患難期は、国家としてのイスラエルと、ある小国の君主反キリストとの同盟条約締結 【D】をもって始まる。そして最後は、イスラエル民族の悔い改め・メシア受容・キリストの再臨、そして反キリストとその軍隊の壊滅 【E】をもって、大患難期は終了する。
4. 大患難期終了【E】後、メシアの王国 (千年王国) の始まり【G】までに 75 日間の準備期間がある。この期間に起きる出来事のひとつが、諸国民の裁き 【F】である。大患難期を生き残った諸国民が、正しい者と悪い者とに区分され、正しい者は千年王国に入ることを認められる。これをもって、奥義としての神の国は終了する。

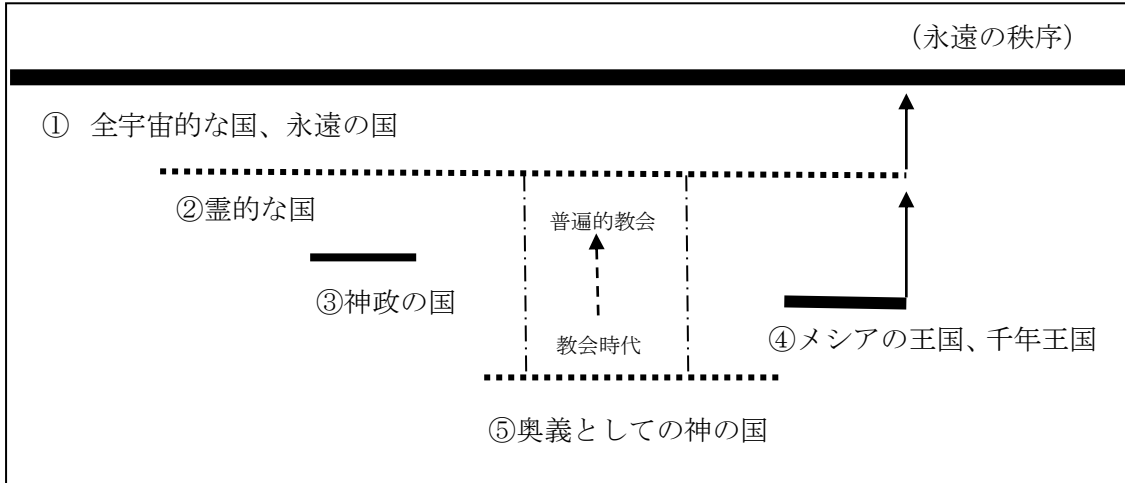


□ 今回の内容

1. 神の国の5つの層について、それぞれの聖書関連箇所を学ぶ。
 - (1) その中で、第5の層「奥義としての神の国」については、聖書関連箇所を3つのグループに区分けする。全体像、教会時代、大患難期の3つ。
 - (2) また、聖書の中で「神の国」というとき、一つだけの層を指すのではなく、5つの層全体、あるいは信者に特に関係する複数の層を指すことがある。そこで、「神の国のプログラム全体」という項目を設ける。
 - (3) 以上の観点で作成した表が、P.2。今回の学びの範囲は、このページのみ。
2. P.3からP.6は、参考資料として付けている。第1の層から第4の層までの解説。今回の学びでは、3ページの(5)を説明する。

□神の国の5つの層

神の国の5つの層の概念図（実線：目に見える、点線：目に見えない）



神の国の層		聖書箇所
①	全宇宙的 永遠の国	I 歴 29 : 11~12、詩 10 : 16、29 : 10、74 : 12、90 : 1~6、93 : 1~5、 103 : 19~22、145 : 1~21、148 : 1~14、エレ 10 : 10、哀歌 5 : 9、 ダニ 4 : 17、25、32、6 : 26、使徒 17 : 24、 II テモ 4 : 18
②	霊的な国	マタイ 6 : 33、19 : 12、14、16~24、ヨハネ 3 : 3~5、 I コリ 4 : 20、コロ 1 : 13~14、4 : 11、I テサ 2 : 12
③	神政の国	出 19 章~II 歴 36 章 出 19 : 6「祭司の王国」、29 : 45、I サム 8 : 7、16 : 1
④	メシアの 王国	(旧約預言等に多く登場、ここではマタイの福音書と使徒の働きから) マタイ 3 : 2、4 : 17、4 : 23、5 : 3、5 : 10、6 : 10、7 : 21、8 : 11 16 : 28、19 : 28、20 : 1、21、31、22 : 2、23 : 13、24 : 14 25 : 34、26 : 29、使徒 1 : 6、14 : 22
⑤	全体像	マタイ 13 : 3~50、マルコ 4 : 3~32、ルカ 8 : 4~18、17 : 20~21
	教会時代	マタイ 16 : 19 (ペテロが鍵を持ち、扉を開く) マタイ 18 : 23 (交わりのための赦し) 注：救いのための赦しではない
	大患難期	マタイ 25 : 1~30 (2つのたとえ話、大患難期の異邦人が対象)
神の国の プログラム全体		マタイ 13 : 51~52 使徒 1 : 3 (イエスが弟子たちに教えた)、8 : 12 (ピリポがサマリヤ人 に対して説明)、19 : 8 (パウロがエペソの会堂にて語った)、20 : 25 (パ ウロがエペソの教会の長老たちに回想して)、28 : 23 (ローマのユダヤ 人指導者たちに)、28 : 31 (ローマにおけるパウロの宣教テーマ)

1. 全宇宙的な国、または永遠の国

(1) 特徴

- ① 神が、被造物すべてに対して、主権的に支配しておられる
- ② 神が常時コントロール下に置いておられ、何事も神のみこころの外側で起きることはない
- ③ 「全宇宙的な」・・・神が造ったすべての被造物（天使たちをも含む）、全宇宙に神の支配が及ぶことを強調する表現
- ④ 「永遠の」・・・時間の制約がないこと、神によるコントロールができる時間帯とそうでない時間帯があるというような状態ではないこと、あるいは神の支配が及ぶ期間が限られていて、ある時点からは神の支配がなくなるというような状態ではないこと → 何事も神のみこころの外側で起きることはない

(2) 2 ページの図では、「目に見える」ということで、実線にて示しているが、この国に領域は、物質界だけでなく、天使など通常は目に見えない霊的世界も含む。

(3) 関連箇所は、2 ページの表①のとおり。神のすべての被造物に対して、神が、主権的にかつ永遠に支配しておられることを示す

(4) この国の中にいることを理解すると、神に対して全幅の信頼を持つ

(5) パウロは、**Ⅱテモ 4:18**において、信者が肉体の死を経て、その霊魂が行く先を「天の御国」と言っている。この国は、**全宇宙的な永遠の神の国**である。

- ① 全宇宙的な永遠の国は、物質界だけでなく、霊的世界も含む。
- ② 霊的世界の中には、神の御座があり、天使たちが神に仕えている領域がある。それを聖書は、「第三の天」（Ⅱコリ 12:2）と呼ぶ。
- ③ その第三の天の中に、「パラダイス」（Ⅱコリ 12:2、4）がある。信者が肉体の死を経て、その霊魂が行く先である。
 - なお、イエスの復活・昇天までは、パラダイスは、よみの中にあった。
 - マタイ 12:40 「地の中」・・・体は「墓の中」、たましいは「地の中にあるよみ」
 - ルカ 23:43 「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」
 - 詩篇 68:18 「あなたは捕虜を引き連れて いと高き所に上り」→エペソ 4:8・・・イエスは昇天に際し、よみの中のパラダイスにいた旧約の聖徒たちを伴った。パラダイスはこれ以降、地の中ではなく、天にある。
- ④ 第一の天は鳥たちが飛ぶ空間、第二の天は太陽、月、星が置かれた宇宙空間である。物質界であるが、同時に霊的世界を持つ。悪魔や悪霊たちがいるのは、この第一の天、第二の天の霊的世界である（エペソ 6:12 「天上にいる」・・・この天は複数形、エペソ 2:2 「空中の権威」・・・第一の天にいる悪霊たち）

2. 霊的な国

(1) 特徴

① 信者の心の中における、神の支配

② すべての信者から成る国、信者だけの国。あらゆる時代の信者である。

③ この国に入る手段は、聖霊による新生（再生）である。

(2) 普遍的教会との関係：教会は使徒 2 章のペンテコステで誕生し、教会時代が始まった。教会時代は、教会の携挙で終わる。この教会時代においては、霊的な国と普遍的教会は重なる。

【用語の説明】 普遍的教会：目に見えない教会、真の信者だけによって構成される。キリストをかしらとし、教会時代のすべての真の信者がキリストのからだとして、一つに組み合わされている。常に単数形。

地域教会：目に見える、地上の教会。真の信者だけでなく、まだ信じていない者や偽の信者（偽教師など）を含む。

(3) 普遍的教会との違い：霊的な国は、教会が誕生する前から存在し、そして携挙によって教会時代が終わった後も存在する。霊的な国には、アダム以来の旧約の聖徒たちも、そして携挙の後の聖徒たちも含めて、すべての信者たちが入る。

(4) 聖書の該当箇所

① マタイ 6 : 33 「まず神の国と神の義を求めなさい」② マタイ 19 : 16、23～24 「先生、永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか」、「まことに、あなたがたに言います。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。もう一度あなたがたに言います。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」③ ヨハネ 3 : 3～5 「人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません」、「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」④ I コリ 4 : 20 神の国は、ことばではなく力にあるのです。⑤ コロ 1 : 13～14 御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。→ [～の中に移した、神の愛の御子の王国、この御子のうちに、贖い、私たちの罪の赦しがある]⑥ コロ 4 : 11 割礼のある人では、この三人だけが神の国のために働く私の同労者です。彼らは私にとって慰めになりました。⑦ I テサ 2 : 12 ご自分の御国と栄光にあずかるようにと召してくださる神にふさわしく歩むよう、勧め、励まし、厳かに命じました。

(5) まとめ：霊的な国には、すべての信者が、信じたときに入る。アダムから、メシアの王国の終わりまでに救われる最後の人まで、である。

3. 神政の国

(1) 特徴

- ① 神がイスラエルを支配する（出 19 : 6 「祭司の王国」 29 : 45、I サム 8 : 7）
- ② 歴史上に現れた国
 - 出エジプトの後、神はイスラエルと、シナイ山にて契約を結び、神政の国が樹立された。
 - シナイ契約は、モーセの律法とも呼ばれ、神政の国の憲法ともいうべきもの。

(2) 神政の国は、二つの段階をもった。

- ① 仲介者を立てた神政国：モーセからサムエルまで。神は仲介者を立ててイスラエルを支配した。
 - 仲介者とは、モーセ、ヨシュア、そして士師たちである。
 - サムエルは最後の士師であると同時に、次の段階への橋渡しの役割を担った。彼は、イスラエルの最初の 2 人の王に油注ぎをした。
 - 一人目はサウル、二人目はダビデ。サウルは、時期的にはまだ第一段階の「仲介者を立てた時期」に属する。
- ② 王を立てた神政国：ダビデ王（I サム 16 : 1）からゼデキヤ王まで。神はダビデ王朝を通してイスラエルを支配した。
 - この段階が終結したのはゼデキヤ王のとき、バビロニアがエルサレムと神殿を破壊した紀元前 586 年であった。
 - この国の晩期において、質が低下していく中、イザヤ、エレミヤ、エゼキエルといった預言者たちが現れた。彼らが宣べ伝えたのは、より良い国、将来の国である。その国とは、神の国の第四の層、「メシアの王国」である。

(3) 神政の国は、聖書で言うと、出エジプト記 19 章で始まり、II 歴代誌 36 章で終わった。

4. メシアの王国、または千年王国

(1) 特徴

- ① メシアが支配する、地上の王国
- ② メシアの支配領域は、イスラエルだけでなく、異邦人諸国にも及ぶ
- ③ エルサレムを首都とし、メシアは全世界の王となる

(2) 呼称の意味

- ① メシアの王国：支配者に焦点をあてた呼称。メシアが王国全体を支配する。
- ② 千年王国：時間的な期間に焦点をあてた呼称。この王国は1000年間続く。

(3) 聖書啓示との関連

- ① メシアの王国は、神とイスラエルとの契約（複数）の中では、ダビデ契約に基づくものである。
- ② メシアの王国は、旧約預言の主要なテーマのひとつであった。
- ③ 新約聖書の福音書において、洗礼者ヨハネが「神の国が近づいた」と宣べ伝えたその神の国とは、メシアの王国のことである。
- ④ 洗礼者ヨハネは、メシアの王国に入る準備として、それまでの民族的罪を悔い改め、その表明として悔い改めの洗礼を受けるように、イスラエルの人々に宣教した。同時に、彼は、メシアの王国で王となる人物、すなわちメシアを人々に指し示す役割を担った。それゆえ、王の先触れ、王の先駆者という意味で、洗礼者ヨハネは、先駆者ヨハネとも呼ばれる。
- ⑤ 先駆者ヨハネは、イエスをメシアであると証言した。そして、イエスは、イスラエルの人々をメシアの王国に招いた。しかし、マタイの福音書12章にあるように、イスラエルの指導者たちは、イエスを拒絶した。
- ⑥ その結果、メシアの王国は、その世代のイスラエルからは取り去られた。

(4) メシアの王国の行く末

- ① 人の目から見ると、メシアの王国は、先延ばしになったように見える。
- ② しかし、神の目から見れば、これは神の計画の一部である。
 - メシアの死と贖いは、イザヤ52:13～53:12で、すでに預言されていた。
 - 異邦人に救いが及ぶことについては、イザヤ49:1～13で、これもまた、すでに預言されていた。
- ③ 神は、イスラエル民族に対して、再びメシアの王国へ招く。それは、大患難期のときのイスラエル民族に、である。その世代は、イエスをメシアであると認め、メシアの王国が来る。

- (5) マタイの福音書12章のときの世代と、大患難期のイスラエル民族の世代との間に、神の国の第5の層「奥義としての王国」が登場することになった。それは、新約聖書の奥義（神の奥義が8、サタンの奥義が2、計10の奥義）の中で、最初に明らかにされた奥義であり、イエスご自身が直接弟子たちに語った奥義である。